

平成 27 年度ごみ排出量等の実績について

1 平成 27 年度ごみ排出量の実績

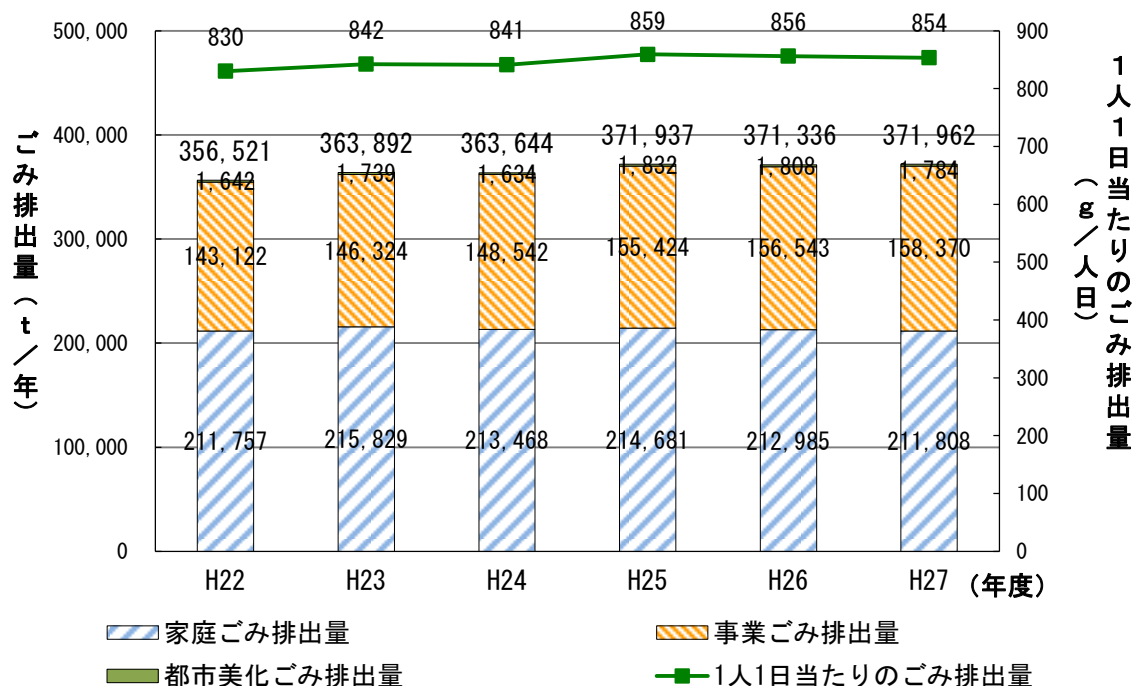
本市の平成 27 年度のごみ排出量の実績（371,962 t）は、平成 26 年度に比べて、626 t 増加している。この増加は、家庭ごみ等が減少した一方で、事業ごみが増加したことによるものである。

区 分	平成 27 年度 実績 (A)	平成 26 年度 実績 (B)	対前年度増減	
			(A-B)	(A-B) / B × 100
排出量 (t)	371,962	371,336	626	0.2%
家庭ごみ (t) (486g/人日)	211,808	212,985 (491g/人日)	△1,177	△0.6%
事業ごみ (t)	158,370	156,543	1,827	1.2%
都市美化ごみ (t)	1,784	1,808	△24	△1.3%
1人1日当たりのごみ排出量 (g/人日)	854	856	△2	△0.2%

(注) ・ 排出量の数値は、平成 26 年 8 月 20 日の豪雨災害に係る災害廃棄物を除いたもの。以下同じ。
 ・ 人口：119万629人（平成 27 年度）、118万8,315人（平成 26 年度）
 ・ 対前年度増減の増減割合は、小数点第 2 位を四捨五入している。

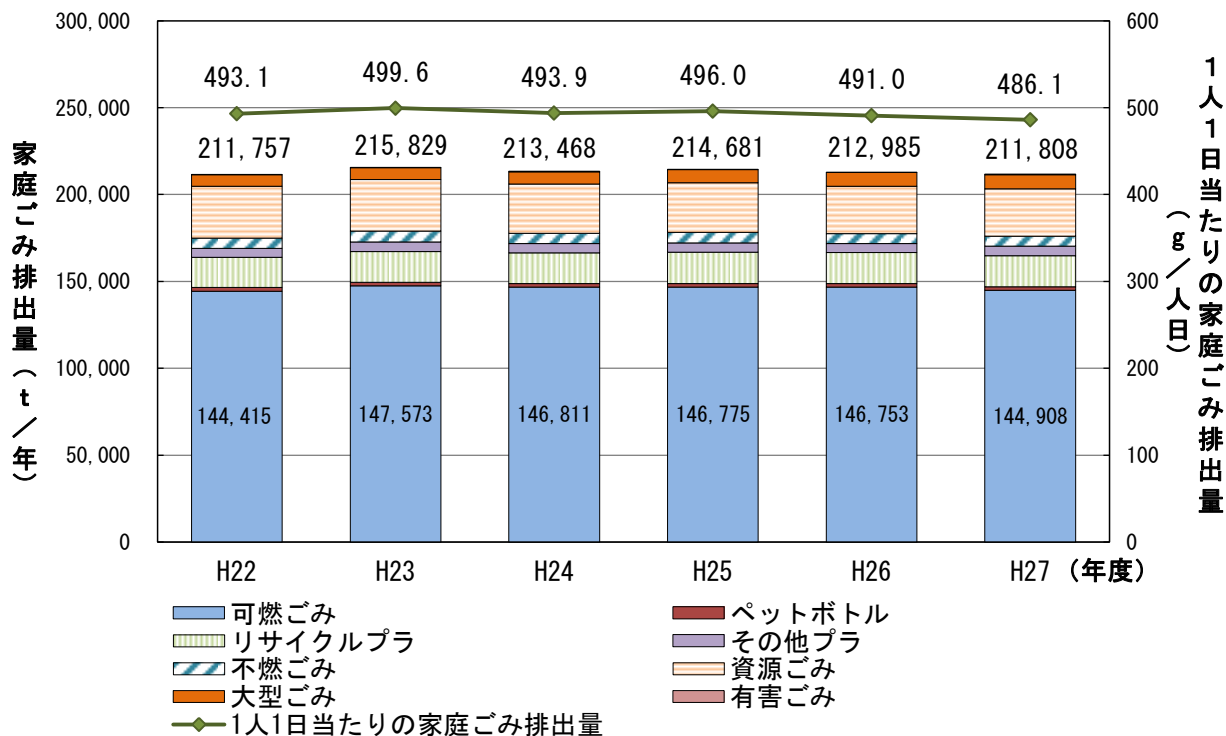
(1) ごみ排出量の推移

ごみ排出量は、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画における基準年度である平成 25 年度以降、おおむね横ばいである。



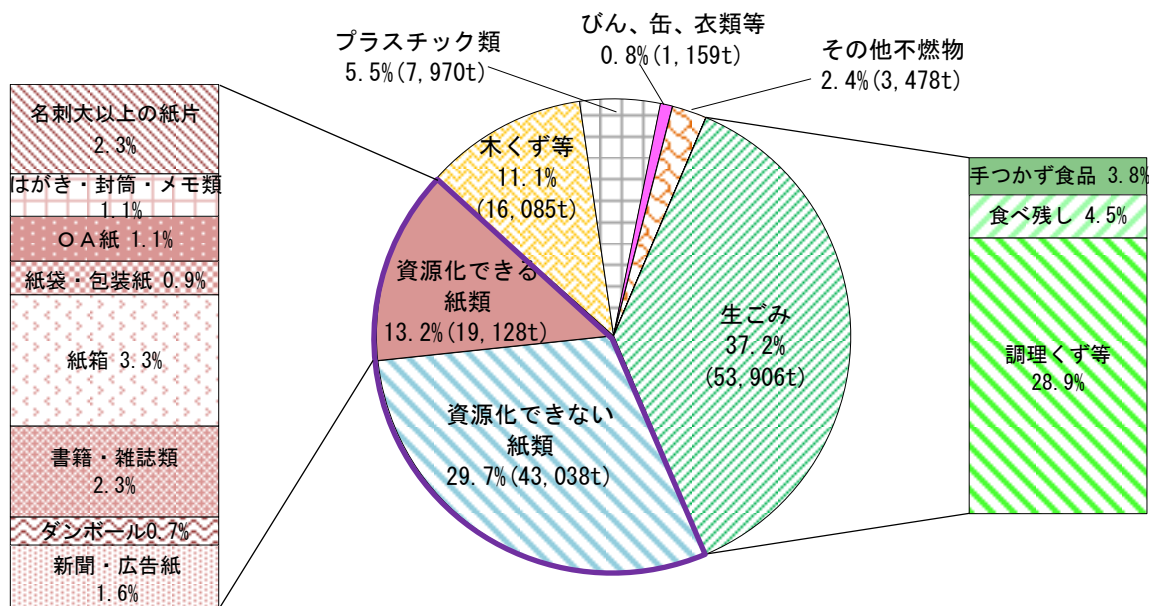
(2) 家庭ごみ

家庭ごみ排出量について、平成27年度実績（211,808t）は、平成26年度に比べて、1,177t減少しており、また、基準年度の平成25年度と比べても、2,873t（約1.3%）減少している。1人1日当たりの排出量についても、平成25年度以降、毎年、約5gずつ減少しており、市民等のごみ減量に対する取組が進んでいるといえる。



(参考) 家庭系可燃ごみの組成分析の結果（平成27年度）

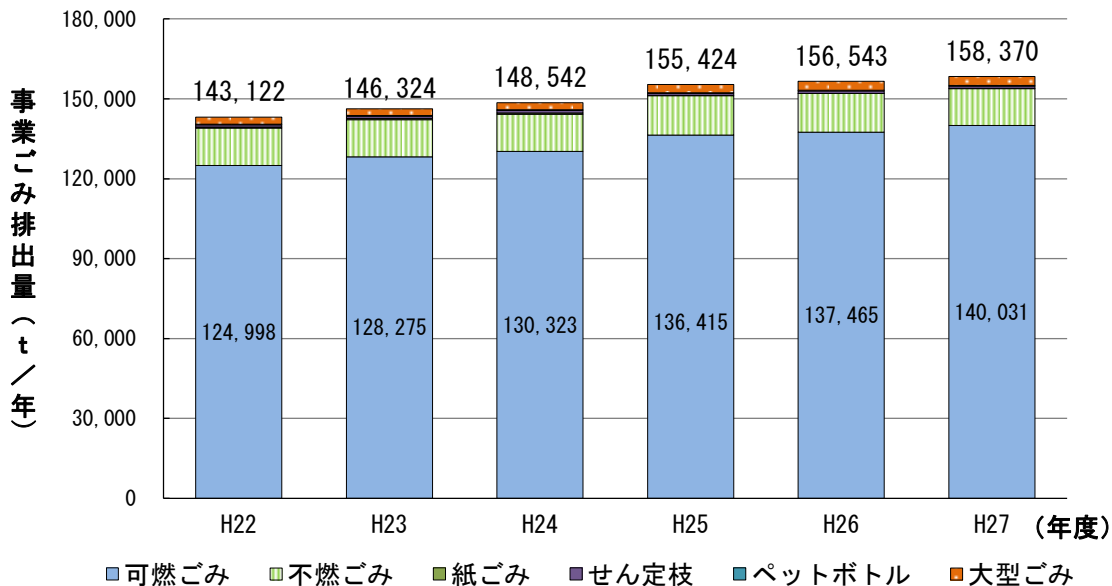
平成27年度の家庭系可燃ごみの組成を見ると、紙類が約43%、生ごみが約37%で、この2種類で全体の約8割を占めている。このうち、紙類については、約13%が資源化できる紙類であり、その主な内訳は、紙箱、書籍・雑誌類、新聞・広告紙等であった。生ごみの内訳は、調理くず等が約29%、食べ残しが約5%、手つかず食品が約4%となっている。



(注) ごみ量は、ごみ組成分析調査により得られた組成割合に基づき推計した。

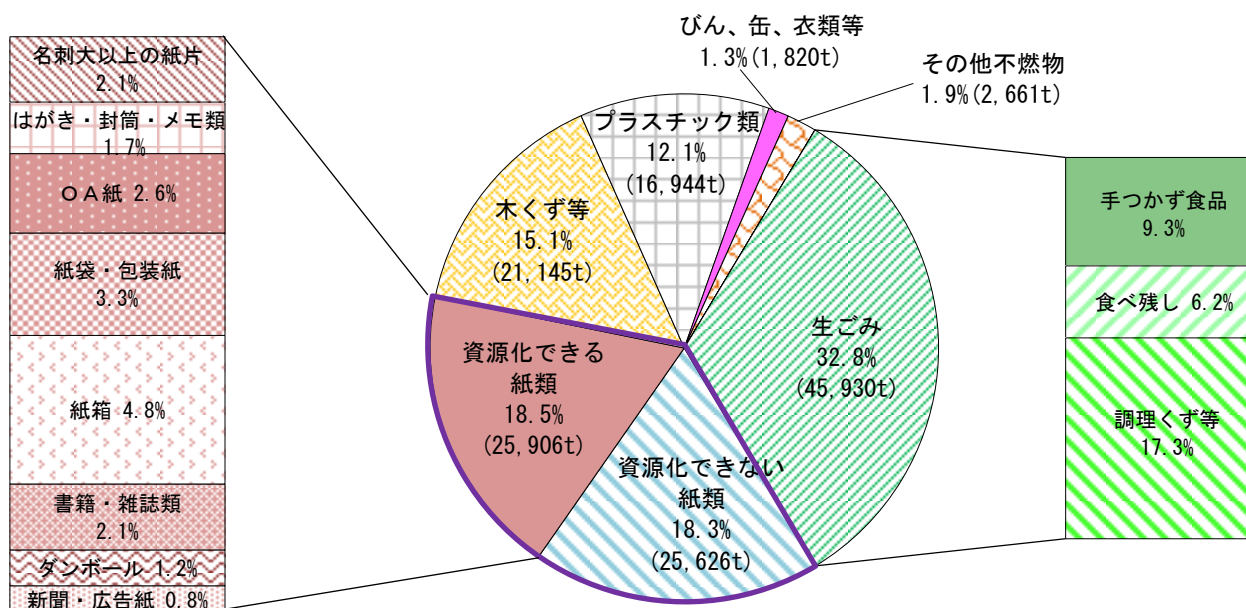
(3) 事業ごみ

事業ごみ排出量について、平成27年度実績（158,370t）は、平成26年度に比べて、1,827t増加しており、また、基準年度の平成25年度と比べても、2,946t（約1.9%）増加している。その中でも、可燃ごみは毎年増加しており、減量に向けた更なる対策が必要であるといえる。



(参考) 事業系可燃ごみの組成分析 (平成27年度)

平成27年度の事業系可燃ごみの組成を見ると、紙類が約37%、生ごみが約33%で、この2種類で全体の約7割を占めている。このうち、紙類については、約19%が資源化できる紙類であり、その主な内訳は、紙箱、紙袋・包装紙、OA紙等であった。生ごみの内訳は、調理くず等が約17%、手つかず食品が約9%、食べ残しが約6%となっている。



(注) ごみ量は、ごみ組成分析調査により得られた組成割合に基づき推計した。

2 平成27年度ごみ処理量の実績

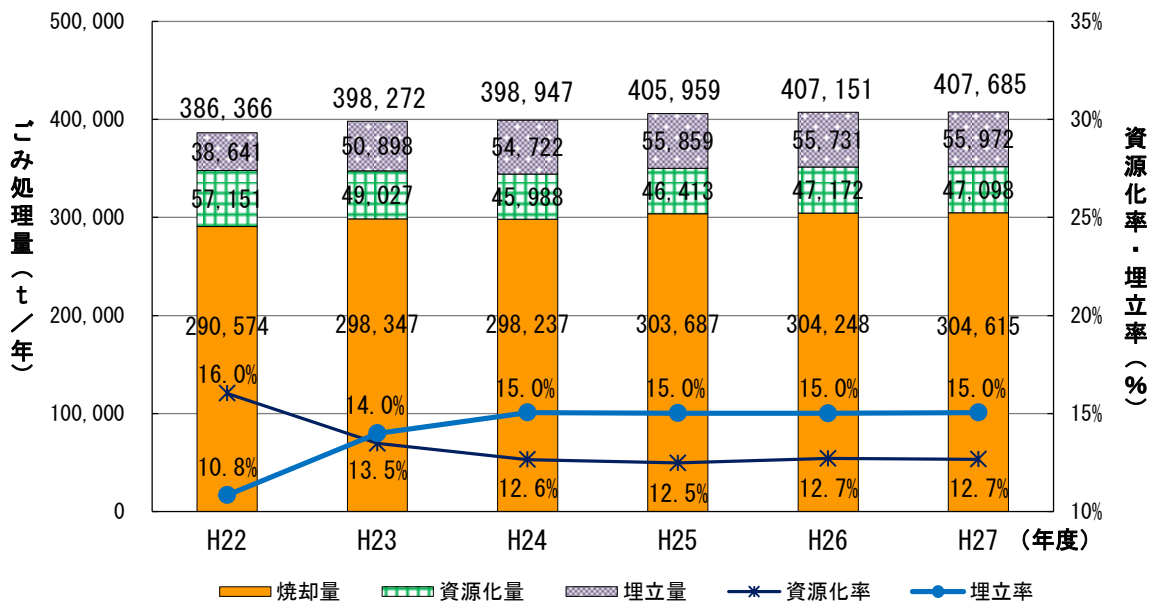
本市の平成27年度のごみ処理量の実績（407,685 t）は、平成26年度に比べて、534 t 増加している。この増加は、資源化量が微減した一方で、焼却量及び埋立量が増加したことによるものである。

区 分		平成27年度 実績(A)	平成26年度 実績(B)	対前年度増減	
				(A-B)	(A-B) / B × 100
処理量(t)		407,685	407,151	534	0.1%
焼却量(t)		304,615	304,248	367	0.1%
埋立量	埋立率	15.0%	15.0%	0	0%
	埋立量(t)	55,972	55,731	241	0.4%
資源化量	資源化率	12.7%	12.7%	0	0%
	資源化量(t)	47,098	47,172	△74	△0.2%

注 対前年度増減の増減割合は、小数点第2位を四捨五入している。

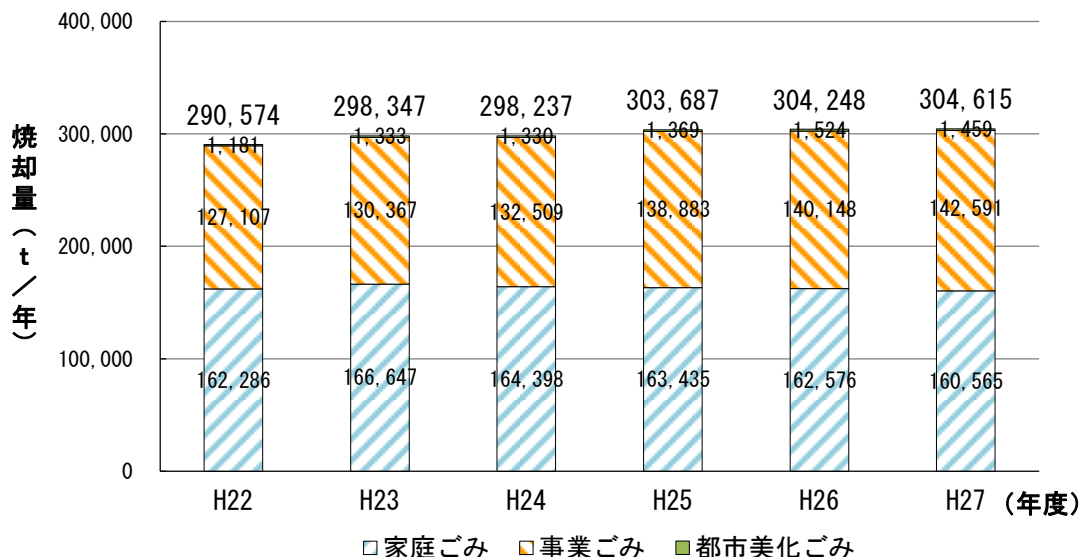
(1) ごみ処理量の推移

ごみ処理量は、基準年度の平成25年度以降、増加傾向にある。この増加は、資源化量及び埋立量がほぼ横ばいである一方、焼却量が増加していることによるものである。



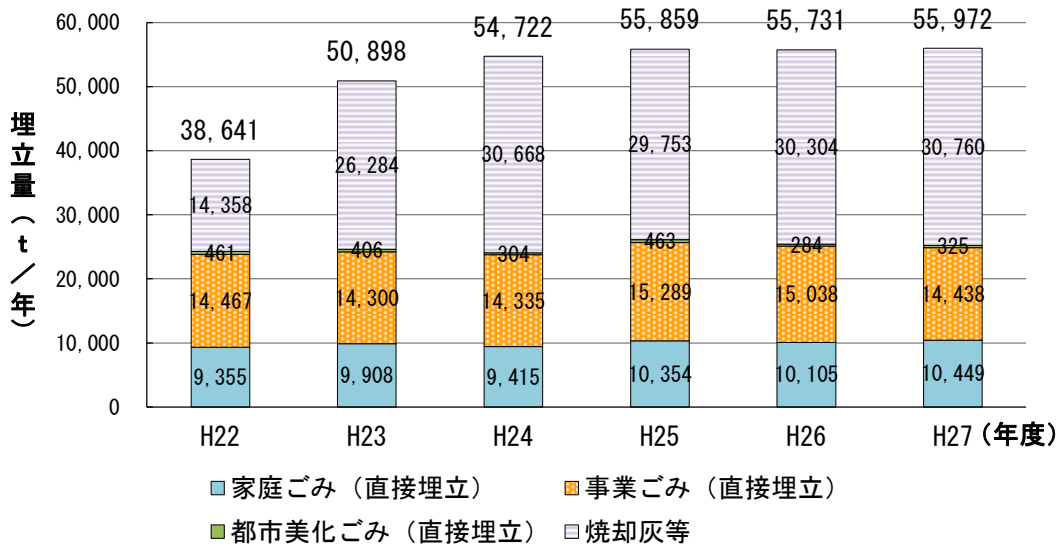
(2) 焼却量

焼却量について、平成27年度実績（304,615 t）は、平成26年度に比べて、367 t 増加しており、また、基準年度である平成25年度と比べても、928 t（約0.3%）増加している。この増加は、家庭ごみの焼却量が減少している一方で、事業ごみの焼却量が増加していることによるものである。



(3) 埋立量

埋立量について、平成27年度実績（55,972 t）は、平成26年度に比べて、241 t 増加している。焼却量の増加により、焼却灰等の埋立量が増加しているが、事業ごみ（直接埋立）が減少していること等から、埋立量は、基準年度である平成25年度以降、おおむね横ばいである。

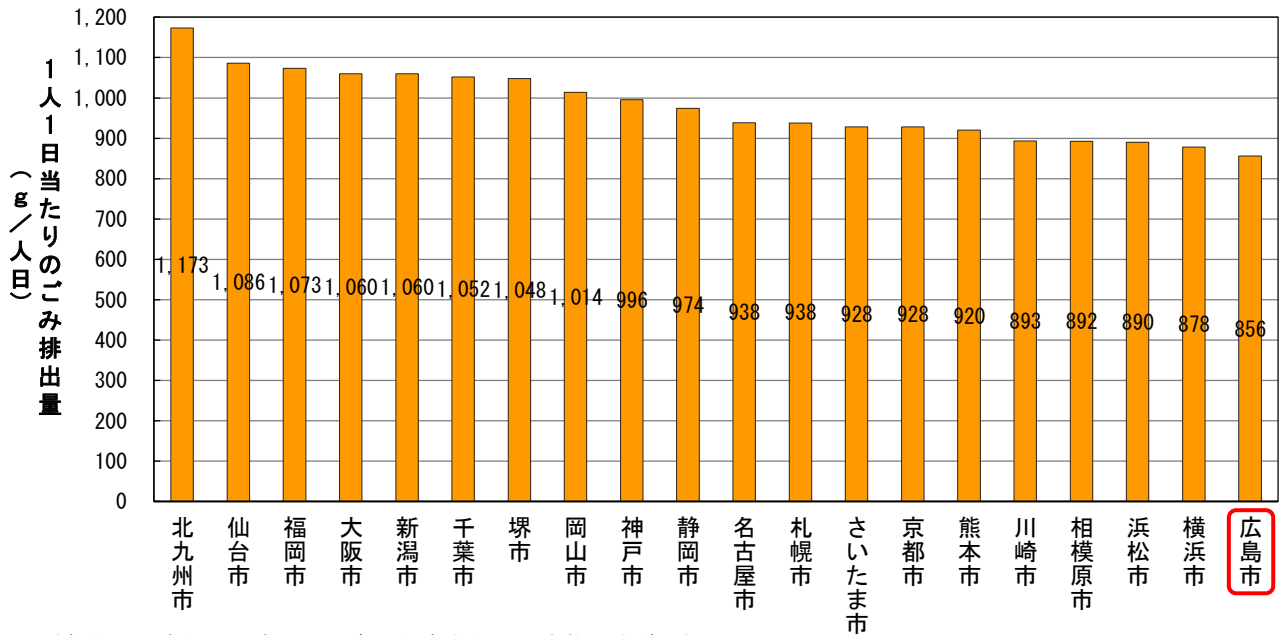


(注) 「直接埋立」とは、焼却、資源化等の処理を経ず埋め立てることをいう。

3 まとめ

本市の1人1日当たりのごみ排出量は、平成17年度以降、政令指定都市の中で最少の水準を維持してはいるものの、平成27年度ごみ排出量等の実績は、平成26年度実績に比べて増加していることから、ごみの減量に向けて、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく各種施策に一層取り組んでいく必要がある。

(参考) 政令指定都市における1人1日当たりのごみ排出量（平成26年度実績）



(資料：環境省 平成26年度一般廃棄物処理実態調査結果)